

# ICTを活用した交通量・旅行速度調査 の方向性

---

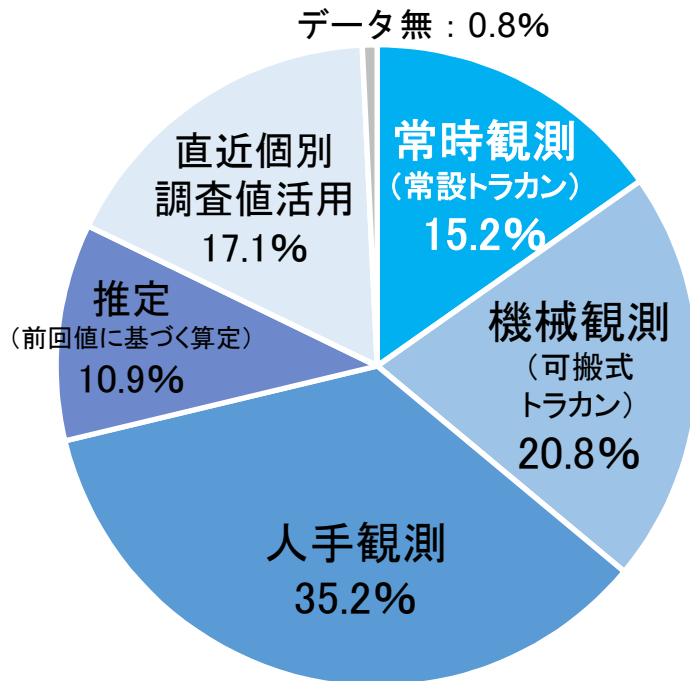
令和元年8月9日

国土交通省 道路局 企画課  
道路経済調査室

## R2年度 交通量調査の方針案

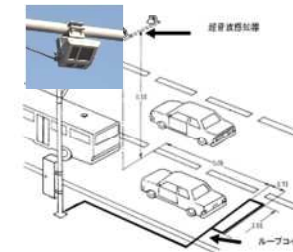
- CCTVのAI解析の導入により常時観測エリアを拡大するとともに、可搬式トラカンやビデオ観測等の機械観測を推進することで、従来の人手観測を廃止し、効率的な調査実施を図る。
- 全国道路・街路交通情勢調査のデータ精度を高めるため、原則として、推定ではなく、実測を実施。

[ H27調査の観測方法（国による調査区間） ]



N=約7,600区間  
(国による調査区間)

常設トラカン  
(常時観測)



継続

人手観測



廃止

CCTVのAI解析  
(常時観測)



新規

可搬式トラカン  
(機械観測)



推進

ビデオ観測  
(機械観測)



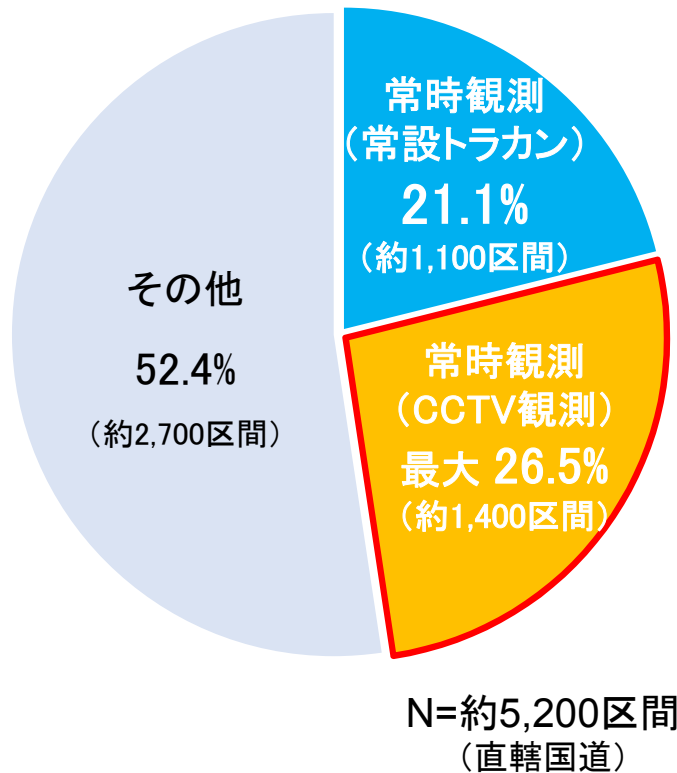
推進

## AIカメラ(画像認識型交通量観測装置)の全国配備

- R1年度は、既設CCTVのAI解析を導入することで、常時観測カバー率の向上を図る。
- AIカメラは、従来の常設トラカンと比較して、車種区分の細分化や二輪車・歩行者への対応といった高度化が可能。

[常時観測カバー率の向上 (直轄国道)] [AIカメラの観測性能]

※暫定値



	観測対象交通量	常設トラカンとの比較
自動車交通量	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 5分間毎</li> <li>● 上下線別</li> <li>● 3車種別 小型車、大型車(バス、普通貨物車)</li> </ul>	常設トラカンでは、2車種別(小型車、大型車)
二輪車交通量・歩行者交通量	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 5分間毎</li> <li>● 上下線別</li> <li>● 二輪車は動力付きと自転車に分類</li> </ul>	常設トラカンでは、観測対象外

※常時観測(CCTV観測)の区間数は、CCTVが設置されている区間のうち、常設トラカンと重複のない区間の最大数

➡ 今後、AI解析ソフトのさらなる改良(新たな車種区分、速度計測等)や効果的な運用方法について検討予定

## R2年度 旅行速度調査の方針案

- ETC2.0データの活用により、直轄管理、地方管理道路ともに、旅行速度調査は常時観測体制へ移行。
- ただし、地方管理道路のETC2.0カバー率の向上は検討が必要。

	直轄管理道路	地方管理道路
H27	<p>民間 プローブ 10%</p> <p>ETC2.0 プローブ 88%</p>	<p>推定（前回値） 7%</p> <p>実走行 8%</p> <p>民間 プローブ 22%</p> <p>ETC2.0 プローブ 61%</p>
H30	<p>ETC2.0 プローブ 99.7%</p>	<p>サンプル数不足 14%</p> <p>ETC2.0 プローブ 86%</p>

# (参考) ETC2.0カバー状況 直轄国道

※H30.9～11月の3ヶ月平日で、混雑時・非混雑時ともに各3サンプル以上

— : サンプル満足    — : サンプル不足

直轄国道



直轄国道



直轄国道



直轄国道

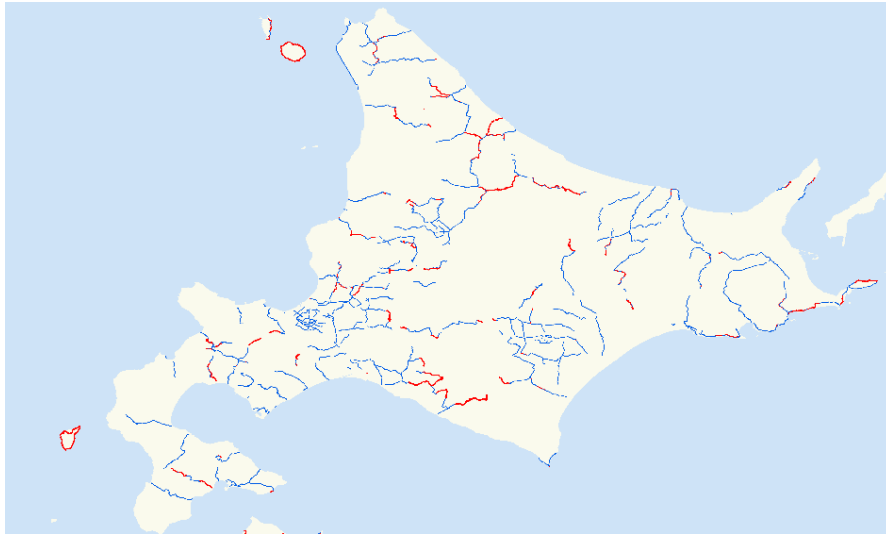


# (参考) ETC2.0カバー状況 主要地方道

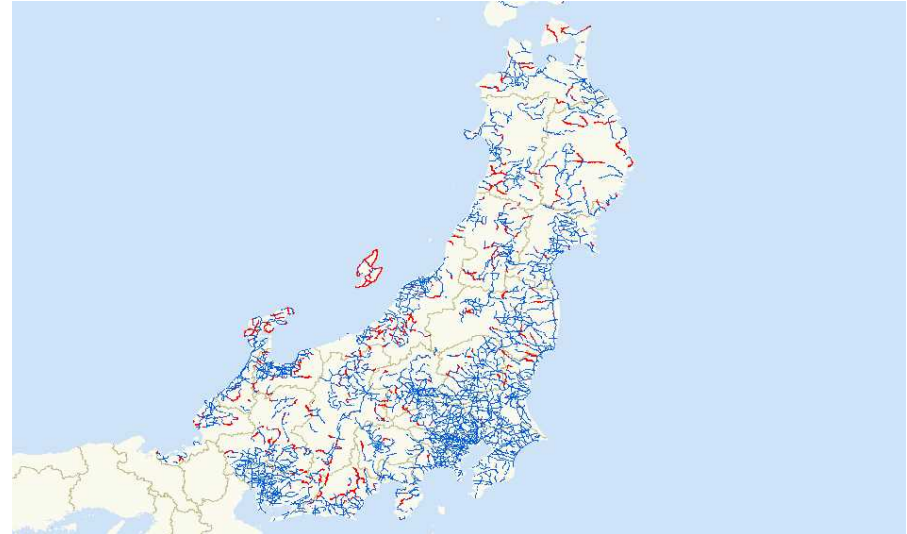
※H30.9～11月の3ヶ月平日で、混雑時・非混雑時ともに各3サンプル以上

— : サンプル満足    — : サンプル不足

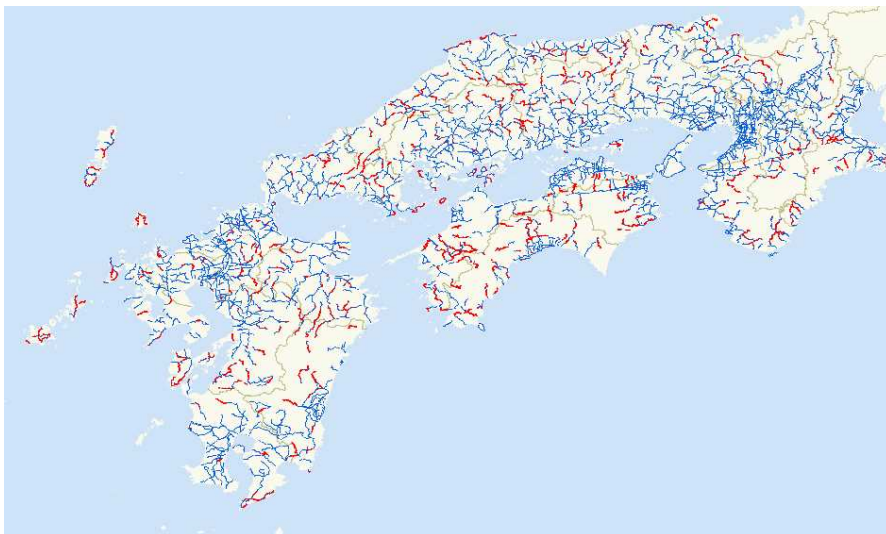
主要地方道



主要地方道



主要地方道



主要地方道

